

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「見せつけろ！己の底力」「No Limit 福泉」のスローガンの下、  
実社会とのつながりや体験的な学びを重視して、次代を担う良識ある社会人として行動できる人材の育成をめざす学校。

## 【めざす生徒像】

- 1) 「夢の実現に向けて意欲的にチャレンジし、努力を惜しまない生徒」の育成をめざす。
- 2) 「学校、社会のルールを守り、集団生活のなかで他人を思いやり、協力することができる生徒」の育成をめざす。
- 3) 「自分の能力や興味を発展させるために、学校生活に積極的に取り組む生徒」の育成をめざす。

## 2 中期的目標

## 1 「学び続ける力」の育成

- (1) 「分かる・できる授業」による「基礎力」の定着をめざす。
  - ・少人数・習熟度別授業、モジュール的ミニ教材、ICT等の活用と継続的な授業研究による系統的・効果的な教科指導の確立をめざす。
- (2) 「受動的な学び」と「能動的な学び」との併用による学習意欲の向上、学習内容の深化をめざす。
  - ・体験的学習、進路希望や興味・関心を踏まえたコース制・選択科目、ICT等の活用方法等、授業内容・方法等を再点検しながら授業研究を進め、カリキュラム全体の改善・充実を図る。

## ※3年後の指標（28年度実績）

- ・入学した生徒の卒業率：93%（84%）
- ・授業アンケート「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」共に3.0以上を維持（3.01 3.03）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「授業はわかりやすく工夫されている」：80%以上肯定（75%）

## 2 「未来を切り拓く力」の育成

- (1) 教科・総合的な学習の時間・特別活動等を活用したキャリア教育の更なる充実を図る。
  - ・大学や企業・外部講師等を活用した体験的な学習（インターンシップ、体験型進路説明会等）を継続・発展させ、社会への視野を広げ、生徒の進路意識の向上をめざす。
  - ・カリキュラムマネジメント（再点検・改善）と連動させて、入学から卒業、さらに将来を見通したキャリア教育の確立を図る。
- (2) 各種検定、大学進学対策室による進学講習等、生徒の能力の発展や進路実現に向けた取り組みをさらに進める。

## ※3年後の指標（28年度実績）

- ・年度末進路決定率100%（98.7%）、学校斡旋就職[一次合格率75%以上維持（75%）]
- ・進学者数140名（108名）、四大進学者数40名（28名）、漢検・英検3級以上の合格者8名（2名）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）：「将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある」85%以上（73%）

## 3 「他者と協働できる力」の育成

- (1) 将来の社会人・職業人を見据えた全教職員による生徒指導により、規範意識の醸成と自律的行動力の育成を図る。
  - ・「励まし育てる」精神を大切にしつつ、あいさつ、マナー、遅刻、身だしなみ等、日々生徒と向き合う指導を大切にする。
  - ・家庭との連携協力体制を確固たるものにするため、丁寧できめ細かな情報の共有を進める。
- (2) 家庭・地域等と連携して安全で安心な学校づくりを進め、生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上を図る。
  - ・保健部を核とした教育相談・生徒支援体制づくりを進め、いじめ、ネットトラブル、不登校、体罰・セクハラ等の早期発見と適切な対応につなげる。
  - ・SC、SSWや関係機関との連携を深め、教職員の対応力の向上を図る。
  - ・PTAや地域との交流活動（防災教育・ホタル鑑賞会・農業体験等）やきめ細かな情報提供を通じて、開かれた学校づくりを進める。
- (3) 生徒会活動・部活動などを通じて、社会とかかわる実践的な行動力の伸長を図る。
  - ・学校行事・学年行事、ボランティアや地域との交流活動等の改善・充実に努める。

## ※3年後の指標（28年度実績）

- ・遅刻総数10,000件（16,500件）、部活動加入率35%（24.2%）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「学校の決まりやルールは適切である」85%以上（76%）  
「学校の決まりやルールをよく守っている」教員回答とのギャップを半分以下に（53ポイント差）  
「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」85%（74%）  
「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」85%（77%）  
「部活動や生徒会活動は活発だ」教員回答とのギャップを半分以下に（47ポイント差）

## 4 「信頼される学校」・「進化する学校組織」の構築

- (1) 校内授業研究、OJTに加えて、中学校や他の高校、関係機関等との連携・情報提供を計画的に進めて、教職員の力量アップを図るとともに、本校教育への信頼度アップにつなげる。
- (2) ミドル層を核とした、メンター制による教職員の育成支援や業務の協働を促進する。
- (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成を図る。
  - ・OJTによる、校内情報ネットワークの活用、生徒支援、分掌業務の中核となる教員の育成を図る。

## ※3年後の指標（28年度実績）

- ・入学者選抜の志願倍率 1.1倍（1.2倍）
- ・学校自己診断各項目について、生徒・保護者・教員のギャップを10ポイント未満（20ポイント以上数項目）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒の肯定的な回答（前年度回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業はわかりやすく工夫されていると思う」73% (71%)</li> <li>・「学習の評価はテストの成績だけでなく、日頃の努力や取組等も含まれていて納得できる」81% (78%)</li> <li>・「将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある」74%(73%)</li> <li>・「科目やコースの選択は、丁寧な説明がありよくわかる」80%(75%)</li> <li>・「先生や学校は、いじめにしっかり対応してくれる」80%(74%)</li> <li>・「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」78% (77%)</li> <li>・「体育大会や文化祭は楽しい」80%(78%)</li> <li>・「成績や個人情報などのプライバシーが守られている。83% (80%)</li> </ul> <p>☆昨年度に比べ、各項目とも肯定的な意見の数値が高く出ており、本校に対する満足度は高いといえる。一方で、「学校へ行くのが楽しい」の項目は肯定的回答が70%と近年で一番低く、対人関係で悩む生徒や校内での生徒間トラブルが増えるなど新たな課題の対応も浮かび上がってきている。</p> <p>○生徒・保護者・教員で回答に大きなギャップがあった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生や学校は進路指導をしっかりとやっている」(85%・76%・85%)</li> <li>・「学校の決まりやルールをよく守っている」(87%・81%・46%)</li> <li>・「クラブ活動や生徒会活動は活発だと思う」(61%・63%・26%)</li> </ul> <p>☆進路指導においては、時代の変化についていけず、教員に頼らざるを得ない保護者の立場が反映されていると思われる。また、決まりやルールが保護者に周知できていない状況が浮かび上がってきた。保護者への丁寧な対応と情報提供の徹底が課題である。クラブ活動・生徒会活動については、本校での在り方を改めて考える必要を感じている。</p>	<p>第1回（6/30）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内組織の変革について、新しい分掌名は、生徒の側の視点に立った名称なのでとても良いと思う。</li> <li>・校長先生からの発信だけでなく、先生たちから出てくるスローガンもあれば、さらにすばらしい。先生たちの人間力が本当の教育力だと思うので、トップダウンとボトムアップの両面で。</li> <li>・公立高校にも、エンパワーメントスクールや総合学科などの改編が起きる中、「普通科」の看板への期待も世間には存在している。多種多様化が進み過ぎた感がある現在だからこそ、「普通科」の良さを前面に出してアピールしていただきたい。</li> </ul> <p>第2回（11/9）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭は雨天で来場者数は例年より減ったという事だが、1・2年生の展示イベント部門の室内装飾がとても上手だった。飲食模擬店も盛況だったし、ステージ部門ではどの出し物も一生懸命でとてもよかった。</li> <li>・文化祭の生徒の取組みに規則が細かすぎると、かえって逆効果になることもあると思います。もう少しのびのび自由にできたらいいなと思います。</li> <li>・修学旅行には、生徒目線・保護者目線で考えた企画も入れてほしいです。</li> <li>・「普通科」の特色をもっとPRできたらいいですね。</li> </ul> <p>第3回（3/22）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生へのカリキュラムの説明は、どのような感じでされているのでしょうか。学校設定科目名や専門コース名など、パンフレットに記載されている用語が理解しにくい中学生もいると思います。</li> <li>・「総合学科」や「エンパワメントスクール」など、近隣校がスタイルを変えている中、福泉高校は、「普通科」らしさをもっと打ち出してほしいです。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学び続ける力の育成	(1) 「基礎力」の定着 (2) 学習意欲の向上、学習内容の深化	(1) スモールステップや学びのユニバーサルデザインを意識して、ICT機器、資料の活用など、「わかる授業」を工夫する。 (2) 校内初任研を核に他の教員を巻き込みながら、ICTの活用や授業方法等、授業研究を進める。	(1) (2) ・授業アンケートの「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」共に3.0以上を維持(3.01, 3.03) ・自己診断「授業はわかりやすく工夫されている」80%(75%)	(1) (2) ・授業アンケートの「興味…」は、前年度3.01。「知識…」は前年度3.03。今年度はいずれも3.09と前回は上回る。(◎) ・自己診断(生徒)では、「授業がわかりやすく工夫されている」が73%。80%を目標値としたが、前年度75%をやや割り込んだ。1年の手厚い授業から急に深化する2年生で数値の伸び悩みが見える。次年度も「授業」の工夫を、組織として継続的に取り組むことが当たり前の環境作りを行っていく。(△)
未来を切り拓く力の育成	(1) キャリア教育の更なる充実 (2) 生徒の能力の発展や進路実現に向けた取組み	(1) 企業・大学等外部機関との連携を進め、体験的な学習を核に、進路意識の向上を図る。 (2) 考査や休業期間等の更なる活用等を工夫して、進学講習等の取組みを進める。	(1) 自己診断(生徒)「進路や生き方などの学習機会」生徒肯定的回答3%up(73%) (2) 進路決定率100%(98.7%) 学校幹旋一次合格率75%維持(75.6%) 四大進学者30名(28名)	(1) 73%→74%。2年連続で微増。生徒の肯定的回答が、さらに増えるよう、施策の充実を図っていく。(○) (2) ・進路決定率は95%(98.7%)。(△) ・学校幹旋一次合格率81%(75.6%)で昨年度を大きく上回った。企業とのミスマッチを回避すべく、担当教員が大いに努力した。(◎) ・四大進学者31名(28名)。目標達成。(◎)
他者と協働できる力の育成	(1) 規範意識の醸成と自立的行動力の育成 (2) 生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上	(1) ア. あいさつ、各種マナー、遅刻・服装・頭髪等、家庭と連携を密にして、全教職員による粘り強い指導の継続 イ. SNSに係るトラブル防止に向けた啓発 (2) ア. 保健部・教育相談委員会等を核に、SC・SSW等との連携を進め、中退やいじめ等の防止、丁寧な対応に組織的に取り組む。 イ. 部活動や行事等、活動の様子等を掲示するコーナーやWebページの更なる充実など、生徒の頑張っている姿を更にPR	(1) ア. 遅刻10%減(16,500件, 9.2%減)及び生徒指導事案や苦情への即応 (2) ア. 自己診断(生徒)の「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」、「いじめに、しっかり対応してくれる」共に80%(77%、75%) イ. 公式戦出場部員のキープをめざし、部活動加入率30%(24.2%)	(1) ア. 遅刻件数は14,153(16,500)14.2%減。先生方の努力により、生徒の認識も変化しつつある。今後も粘り強い指導の継続が不可欠との認識を持っている。(◎) (2) ア. 自己診断数値は、「悩み…」78%(77%)、「いじめ」80%(75%)で目標値達成。いずれも前回値を上回った。(○) イ. 部活動加入率は、20.5%(24.2%)。目標値の30%どころか、前年値をも下回った。背景として、経済的・環境的にクラブ加入が物理的にできない生徒が一定数いるということと、魅力作りがうまくいっていない点が挙げられる。顧問教員が、クラブ活動時間帯に、多忙であるという側面をどう解消していくかが課題である。(△)

## 府立福泉高等学校

信頼される学校、 進化する学校組織の 構築	<p>(1) 教職員の力量と本校の信頼度アップ</p> <p>(2) 教職員の育成支援や業務の協働を促進</p> <p>(3) 校務運営を継承発展させる教員の育成</p>	<p>(1) ア. 授業研究・生徒対応研修等の定期的開催 イ. 保護者・地域等への情報提供・情報収集内容・方法の再検討</p> <p>ウ. 個人情報の管理等、コンプライアンス意識の向上・業務等の再確認。</p> <p>(2) 校内初任研とミドル層の校内研修とを連携させるなど、若手教員の育成支援や学校運営への参画を図る。</p> <p>(3) ア. 前任者等と協働しながら、業務内容の改善や新たな体制づくりを進める。 イ. ノウハウ等の継承に向けた体制や資料の整備をする。</p>	<p>(1) ア. 各学期程度に開催 アイ. 中学校等と連携した研修の複数回開催、多様な形態の広報活動の工夫</p> <p>ウ. 定期的な確認や研修の実施</p> <p>(2) ・各学期程度の開催 ・他校視察等を奨励し、初任者各自最低1回は校内で研修発表の場を設定</p> <p>(3) アイ. 業務改善に特化した運営メンバーによる会議を年3回以上開催。アンケートでの肯定率70%</p>	<p>(1) ア. 授業研究は、若手教員が中心となって積極的に授業を公開しており、全体的に改善を行う雰囲気が醸成しつつある。また、生徒対応研修等も実践をとおして各自各所で適宜行われており、一定のレベルアップにつながっている。(○)</p> <p>イ. 中学校の先生に来校してもらい、授業を見学等を実施。近隣中学からは学校長の参加もあり、本校にとってとてもいい刺激となった。(◎)</p> <p>ウ. 定期的な情報共有を実施。(○)</p> <p>(2) ・各学期程度の校内研修開催は実施。(○)</p> <p>・他校視察は、若手から中堅までの教員が「和泉支援学校」を視察。中学校では近隣の「福泉中学校」から校長を含む複数の教員が来校し本校の授業を視察。2月に同中学に本校教員の見学訪問を予定。また、初任者の視察発表も複数回実施し、好評を得る。(◎)</p> <p>(3) 新体制への会議は時間が思うように取れず、活発には行えなかった。肯定率は83%。(△)</p>
-----------------------------	---	--	--	--